

ロータス・カルテット

高崎芸術劇場再登場

日本発祥で30年国際的に活躍する
唯一の存在。



©Sven-Cichowicz_highres

日本に生まれ、世界で花開く四重奏。

特別
協賛

パティスリークリエーション
GATEAU FESTA 株式会社
ガトーフェスタハラダ

株式会社 清水

株式会社 藤田ビジネスプロモーター

Green engineering
株式会社 しみづ農園

2026年 3月6日 [金] 16:00開演 (15:30開場)

高崎芸術劇場 音楽ホール

Friday, March 6th, 2026 16:00 (Open 15:30)

[主催] 株式会社 空間あい [共催] ロータスカルテット [後援] 高崎市、(公財)高崎財団、上毛新聞社、群馬テレビ、FM GUNMA

プログラム

モーツァルト：弦楽四重奏曲 K.499 ニ長調「ホフマイスター」

Mozart : String Quartet in D-major K.499 "Hoffmeister"

- 1楽章 アレグレット I. Allegretto
2楽章 メヌエット アレグレット II. Minuetto : Allegretto
3楽章 アダージョ III. Adagio
4楽章 アレグロ IV. Allegro

ウェーベルン：弦楽四重奏曲(1905)

WEBERN,A. : String Quartet (1905)

休憩20分

シューベルト：弦楽四重奏曲 第15番 D887 ト長調

Schubert : String Quartet No.15 in G major, D.887

- 第1楽章 アレグロ・モルト・モデラート I. Allegro molto moderato
第2楽章 アンダンテ・ウン・ポコ・モート II. Andante un poco moto
第3楽章 スケルツォ：アレグロ・ヴィヴァーチェ — トリオ：アレグレット III. Scherzo. Allegro vivace – Trio. Allegretto
第4楽章 アレグロ・アッサイ IV. Allegro assai

ロータス・カルテット・メンバー Lotus Quartet Members

クリスティーネ・ブッシュ (ヴァイオリン) Christine Busch Vn
小林幸子 (ヴァイオリン) Sachiko Kobayashi Vn
山崎 智子 (ヴィオラ) Tomoko Yamazaki Va
齋藤 千尋 (チェロ) Chiro Saitoh Vc



©Sven-Cichowicz_highres

プロフィール

1992年結成。ドイツ・シュトゥットガルトを拠点として活動しているロータス・カルテットは2025/26年シーズンから新たな展開を迎えた。歴史的奏法の分野で特に高い評価を得るヴァイオリニストで、シュトゥットガルト音楽大学教授でもあるクリスティーネ・ブッシュを新たなメンバーに迎え、小林幸子とクリスティーネ・ブッシュが二つのヴァイオリン・パートを交代で務めることとなった。

1997年・2000年にテルデック・レーベルによるモーツァルトや日本作品による録音や2014年にCPOからリリースされたヴァンハル作品集はいずれも高評を獲得。加えて日本では、ドイツでのスタジオ録音を中心に、独逸古典・ロマン派のレパートリーを次々にリリース。文化庁芸術祭優秀賞や「レコード芸術」特選を得るなどして、ヨーロッパでの充実した活動ぶりを日本の音楽界に広く伝えた。1993年 第1回大阪国際室内楽コンクール第3位受賞。これを契機にアマデウス弦楽四重奏団とメロス弦楽四重奏団に学び、シュトゥットガルト音楽大学にてさらに研鑽を積む。これ以後、数々の国際コンクールでの受賞を重ねた。

これを契機に欧州各地の主要な音楽祭や室内楽シリーズに音楽祭に招かれている。

ロータス・カルテットは日本発祥の国際的な弦楽四重奏団として、すでに30年以上のキャリアを誇り、今やドイツにおける弦楽四重奏の伝統的精神を受け継ぐ稀有な存在である。

プログラムノート

モーツァルト

弦楽四重奏曲第20番 ニ長調 K.499

Mozart : String Quartet in D-major K.499 "Hoffmeister"

ヴォルガング・アマデウス・モーツァルト (1756-1791) は、35年の短い生涯の間に、実におよそ800曲もの天上の音楽を残し、疾風のごとくこの世を駆け抜けていった稀有の天才だった。音楽家が芸術家として尊敬され社会的にも安定した地位につくことができるようになったのは、ただか19世紀以降のことで、モーツァルトが活躍していた18世紀後半には、その社会的な身分はまだまだ大変低く、収入も不安定で、雇主からは下僕並みの扱いを受けていた。こうした屈辱的な状況にあき足らず、独立した音楽家としての自由な身分を勝ち取ろうと最初に試みたのが、モーツァルトだ。その時代の1786年に作曲された弦楽四重奏曲は、モーツァルトと親しい仲にあった作曲家で出版業者のフランツ・アントン・ホフマイスター (1754年-1812年) のために作曲されたといわれているため、『ホフマイスター』(Hoffmeister) の愛称で知られる。モーツァルトが経済的に困窮していた際、ホフマイスターは、彼に前借金を許すなど、友人として金銭的な助け舟を出すこともあった。モーツァルト自身による作品目録によれば、1786年8月19日にウィーンで完成したと記されている。この時代にはやや珍しくポリフォニーが多く用いられているのが特徴であり、メヌエットとトリオにそれは顕著である。

ウェーベルン 弦楽四重奏曲 (1905)

WEBERN, A. : String Quartet (1905)

アントン・フリードリヒ・ヴィルヘルム・フォン・ウェーベルン (1883年12月3日 - 1945年9月15日) は、オーストリアの作曲家、指揮者、音楽学者。シェーンベルクやベルクと並んで新ウィーン楽派の中核メンバーであり、なおかつ20世紀前半の作曲家として最も前衛的な作風を展開した。1938年にナチス・ドイツによりオーストリアが吸収合併されると、ウェーベルンの音楽は「頹廢音楽」「文化的ボルシェヴィズム」との烙印を押され、演奏活動で生計を立てることは困難になった。このため、生前は顧みられる機会がほとんどなかったが、戦後の前衛音楽勃興の中で再評価され、世界的に多くの作曲家に影響を与えたが、最期ほど悲しいものはなかった。ナチス・ドイツの迫害から解放され、戦後ようやく作曲活動を再開するめどが立ったウェーベルンだったが、1945年に、終戦後に作曲活動を再開する思惑から、ウィーンを去ってザルツブルク近郊のミッタージルの娘の家に避難。しかし、娘婿が元ナチ親衛隊で、当時は闇取引に関与していたのが落とし穴となる。同年9月15日、喫煙のためにベランダに出てタバコに火をつけたところを、オーストリア占領軍の米兵により、闇取引の合図と誤解され、その場で射殺されたのである。これからという時ただだけに、その損失は計り知れない。難解な現代音楽のイメージがあるウェーベルンだが、若き日の作風は、美しいメロディに彩られていたようだ。1905年に作曲された『弦楽四重奏のための緩徐楽章』は

まさにその筆頭。後期ロマン派の薫り漂うこの名曲は、一説によれば、結婚相手とのハイキングがきっかけとなって生まれたといわれている。

シューベルト

弦楽四重奏曲第15番 ト長調 D.887

Schubert : String Quartet No.15 in G major, D.887

フランツ・シューベルト (1797-1828) が1826年6月に作曲した弦楽四重奏曲であり、シューベルトは本作完成から2年後の1828年に没したため、本作がこのジャンルの最後の作品となった。

自筆譜に書き込まれた日付によれば、本作は1826年6月20日から30日にかけてのわずか10日間で書き上げられており、手稿のパート譜は1827年に作成されているが、そのパート譜は現在紛失しており、それが作曲者の手によるものかも不明である。

初演は1828年3月26日に、ウィーンの「赤いはりねずみ館」で催されたシューベルト主催の自作演奏会にて、ヨーゼフ・ベーム、カール・ホルツ、フランツ・ヴァイス、ヨーゼフ・リンケらのメンバーによって第1楽章のみ演奏され、これが公開初演とされている。

全曲初演はシューベルトの没後20年以上が経過した1850年12月8日にウィーンで、ヨーゼフ・ヘルメスベルガー1世率いるヘルメスベルガー弦楽四重奏団によって行われ、楽譜の出版はその翌年の1851年にディアベリ社から「作品161」として出された。曲の構成は、全4楽章、作風としては管弦乐的(ないしは交響的)な書法の導入が試みられ、トレモロ奏法やユニゾンの多用、音色効果、広い音域の使用といった発想はそれまでの弦楽四重奏曲には見られないものとなっている。

第1楽章 アレグロ・モルト・モデラート

ト長調、4分の3拍子、ソナタ形式。

トレモロ奏法が多用され、和声の扱いも独創的で、とくに転調(明暗の変化)では作品全体の重要な要素を形成している。

第2楽章 アンダンテ・ウン・ポコ・モート

ホ短調、2分の2拍子、ロンド風な形式。

ここでも転調は見られ、嬰ハ短調、変ロ短調、ト短調という風に移調する。ホ短調で開始するコーダはホ長調に変わり、明るい感じに終える。

第3楽章 スケルツォ:アレグロ・ヴィヴァーチェ-トリオ:アレグレット

ロ短調 ト長調、4分の3拍子、複合三部形式。

冒頭で奏される動機やトリオでもやはり転調が見られ、トリオは素朴なレントラー舞曲となる。

第4楽章 アレグロ・アッサイ

ト長調、8分の6拍子。ロンドソナタ風の形式。

無窮動的リズムを伴うが、このリズムはタランテラによる(このタランテラも『死と乙女』の終楽章と共通している)。第1楽章と同様、ト長調からト短調のように転調の多用が随所に見られる。

シリーズとして複数の公演の試み

本日の演奏会にご来場いただき誠にありがとうございます。ロータスカルテットは、本日の演奏会に引き続き、3月9日、10日、首都圏で行う。3月9日には、横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール(548席)、【主催】横浜楽友会 チケット価格6500円、今回と同一プログラム。3月10日には、武蔵野文化会館小ホール(429席)、【主催】(公財)武蔵野文化生涯学習事業団で、チケット価格は、一般2,500円 友の会2,250円、プログラムは、オールプログラム、この二つの演奏会は、2月初旬には完売に至っている。

弊社の高崎芸術劇場音楽ホール(412席)の演奏会は、今回、ご来場のお客様がどんな印象を受けたらうか。通常弊社の演奏会は、座席数の半分200人を超える聴衆を超えることがほとんどないが、今回だけは、上記2公演の状況を察知して今後の課題を探求せざるを得なかった。もちろん、上記二つのホールは、東京という巨大なマーケットを抱えている。高崎芸術劇場も首都圏ほどではないが、政令指定都市ほどなみの周辺にマーケットをかかえており、その知名度と劇場主催の室内楽演奏会等は、チケット価格は高額だが、ほぼ満席の集客を図っている。

このような状況を踏まえると、弊社の高崎芸術劇場音楽ホールにおけるチケット販売の課題は、単に立地やマーケット規模だけでなく、宣伝手法や地域への浸透度、さらにはチケット価格設定やプログラム内容の魅力など、複合的な要因が影響している可能性が考えられる。今後は、過去の他の満席事例や他会場の成功要因を分析し、地域の音楽ファンの嗜好やニーズにより一層寄り添った企画を行い、効果的な情報発信することが重要である。

AI(人工知能:Artificial Intelligence)は、人間の知的能力(学習、推論、判断、言語理解など)をコンピュータで再現する技術で、大量のデータを分析してパターンを学習し(ディープラーニング)自動的な判断や予測を行う、AIを活用することが、現在頻繁に行われている。上述の課題に対して、AIは、その構造的な差異は、単なるマーケット規模の差だけでなく、「主催者の性質による価格設定の乖離」と「シリーズ化された固定客の有無」が大きく影響していると考えられるとの回答であった。

I. 圧倒的な価格競争力の差(武蔵野との比較)

3月10日の武蔵野文化会館(小ホール)の完売には、その「異常なまでの低

価格」が寄与している。* 価格差: 武蔵野は一般2,500円・友の会2,250円という、弊社の4,000円や横浜6,500円の半額以下の設定である。* 背景: 同会館を運営する(公財)武蔵野文化生涯学習事業団は、海外からの独自招聘やネットワークを通じたコスト削減を行い、市民への還元として極めて低い価格で提供する独自の戦略をとっている。この価格帯であれば、「とりあえず聴きに行く」というライト層の動員が極めて容易である。

II. 固定ファン層の「会員制度」と「シリーズ化」(横浜との比較)

3月9日の横浜市鶴見区民文化センター サルビアホールでの公演は、横浜楽友会による「サルビアホール・クアルテット・シリーズ(SQS)」の一環である。* 固定客が、このシリーズは長年弦楽四重奏に特化しており、プログラム発表前に完売することも珍しくない「シリーズ買い(セット券)」の固定ファンが基盤にある。そして専門性: 特定のジャンルを深掘りする主催者の下では、500席程度のキャパシティは、広域から集まる熱狂的な愛好家だけで埋まってしまう。

III. 「単発公演」としてのハードル

高崎芸術劇場での公演は、平日金曜日の16:00開演という設定もあり、ターゲット層に限られる。* ブランドの浸透度: 高崎駅からのアクセスや音響の評判は非常に高いものの、「弦楽四重奏を聴くならこのシリーズ」という習慣化が、首都圏の先行事例ほど地域に根付いていない可能性がある。* 競合との比較: 武蔵野のような「公共サービス価格」に慣れた層から見れば高く感じられ、横浜のような「会員制コミュニティ」を持たない場合、集客の負荷がすべて新規プロモーションにかかってしまうということである。そして今後の検討材料として、* セット券の導入: 室内楽シリーズとして複数の公演をパッケージ化し、先行販売で固定層を囲い込む。* ターゲットの再定義: 16:00開演であれば、リタイア層や近隣の音楽教育関係者への直接アプローチを強化する。高崎芸術劇場の音楽ホールは「サントリーホール以上のクオリティ」と評する来場者もいるほどハード面は優れている。この質の高さを、いかに「このホールで聴く必然性」に変えていくかが鍵となる。

私にはすべて、納得できるものではないが、次回の公演に向けて、下記のセット券を割引して販売することにした。皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

空間あい 新井 浄

空間あい ～ 高崎芸術劇場音楽ホール ～ 室内楽シリーズ

前橋汀子 ヴァイオリン リサイタル

ヴァン・マルディロシアン迎えて
～ 珠玉の名曲集～

開催日 6月24日(水) 14:00開演
会場 高崎芸術劇場音楽ホール
入場料 A席4,000円

イタリア歌曲のすべて

愛そして運命をトゥーランドットより!

開催日 6月28日(日) 14:00開演
会場 高崎芸術劇場音楽ホール
入場料 S席4,000円

大嶋義実&佐藤直紀 デュオ・リサイタル

2本の純金フルートが描くプラハの想い出

開催日 8月3日(月) 18:30開演
会場 高崎芸術劇場音楽ホール
入場料 S席4,000円

お得なセット券のご案内

先行発売(4月30日まで)

上記の3公演合計12,000円をセット券として10,000円で販売します。席については、音楽ホールの魅力を堪能できる異なった席(前後、バルコニー席)こちらでご用意させていただきます。予約は、会場で受付または、下記の事務局へ、メール、電話でお願いします。



この度、本日の公演を実現するにあたり、
匿名を含めてご協賛いただき、ありがとうございました。



株式会社 原田 株式会社 清水 株式会社 藤田ビジネスプロモーター 株式会社 しみづ農園 株式会社 エムワイ工業
株式会社 フェドラ 観音山 慈眼院 さわかや歯科クリニック 豊田屋旅館 比紹企画 ミューズ音楽工房タカサキ
小野 善平 様 熊倉 浩靖 様 添川 秀樹 様 高山 嘉朗 様 羽鳥 一夫 様 平岡 貴子 様



あなたに愛と調和と芸術を
株式会社 空間あい

株式会社 空間あい 代表取締役 新井 浄

〒370-0087 高崎市楽間町 280 番地 14 Phone 090-1815-4608 Fax 027-344-1582

【E-mail】 info@kuukanai.com 【HP】 https://kuukanai.com 【ONLINE SHOP】 https://shop.kuukanai.com